

東西条スマイルプラン～心に響く体験を生かした道徳の時間の年間指導計画（第6学年）

テーマ：見つめよう 自分を はばたこう 未来へ

学校教育目標

◎豊かな心を持ち、たくましく生きぬく子どもを育成する

道徳教育重点目標

- ◎ 進んで学ぶ子
- ◎ 命を大切にする子
- ◎ 手をつなぐ子

めざす6年生の子どもの姿

- 自分のよりよいところをさらに伸ばす
- 豊かな人間関係を自分から築く
- 進んで道徳的实践をする

道徳の時間の重点内容項目

〈1－(6)個性伸長〉・2－(2)思いやり・親切・〈3－(2)生命尊重〉・〈4－(1)社会的役割の自覚と責任〉・〈4－(4)勤労・社会奉仕〉

● 重点内容項目の指導構想

学期	教科・特別活動など	総合的な学習の時間	道徳の時間		常時活動
			ロング ユニット	ショート ユニット	
一 学 期	社会 「日本の歴史」	見つめよう ふるさと ○ 修学旅行先と東西条を比べよう ○ ふるさと探検 ○ ふるさとマップづくり ○ 伝えよう「安芸国分寺」	2－(1) 4－(7)	最高学年として 4－(1) 4－(6)	読書タイム ふれあいそうじ・ふれあいサーキット
	特別活動 「創立記念発表会」			自分向上プロジェクト 1－(6)	
二 学 期	国語 「海のいのち」	見つめよう 命 ○ 桜ヶ丘保養園・記念病院を訪ねよう ○ 働かされている方にお話を聞こう ○ 「あったか会」の準備をしよう	2－(5) 4－(4) 3－(2) 2－(2)		
三 学 期	家庭科 「えがおいっぱい大作戦」 社会 「世界の中の日本」 理科 「ヒトと自然」 特別活動 「卒業式」	はばたこう 未来へ ○ これまでの自分を見つめよう ○ ありがとうを伝えよう ○ 世界のなかのこれからの自分を見つめよう	1－(2) 4－(8) 1－(6) (太字が重点項目)	えがおいっぱい 2－(2)	

第6学年2組 道徳学習指導案

心をかよわせて

「心に通じた『どうぞ』のひとつこと」【価値探求型】 2—(2) 思いやり・親切

出典『明日をめざして 道徳6』平成12年版 東京書籍（一部改作）

本時のねらい

相手の立場に立って思いやりの心を持ち、親切にしようとする心情を育てる。

役割演技を通して自らとのかかわりで考えさせる授業

指導者 東広島市立東西条小学校 山上 孝 (T₁)
森高 初美 (T₂)

1 主題設定の理由

◎ねらいとする価値

私たちは、人に親切にされるとうれしく、人のためにした親切を喜んでもらうのもうれしと感じる。親切は私たちが社会生活を営む上で、お互いの親愛と信頼を深くし、明るく温かいものにしてくれる。たとえ、見ず知らずの人との間でなされた1回きりのことであっても、人は相手に感謝の念と社会への安心感や信頼感を厚くする。親切は我々が生きていくために大切な心遣いである。

今日、都市化が進み、人々が孤立化し、連帯感や善意の結びつきが薄れてきている。しかし、人間らしい社会とは、「人の痛みが分かり、他人の気持ちが理解できる」と感じられる深い人間的な感情と思いやりの心に支えられた社会でなければならない。こうした思いやりや親切にしようとする心を、すべての人にもつことができるような指導が大切である。

◎心に響く資料

混み合った電車の車内で、少年の前に立った白髪のおじいさんに、少年は席を譲ろうと思うが声をかけることができず、次の駅で降りるふりをして席を立つ。しかし、他の人に座られてしまい、声をかければよかったと後悔する。その後、おじいさんが座っていることに気がきほっとする。後半でそのおじいさんから、突然「ありがとう。座らせてもらいましたよ」と声をかけられ、気付いてくれていたという驚きと、気持ちが通じていた喜びで、うれしい気持ちになる。また、母にこの出来事を話すことで、心がいっそう温かくなる。その中で、おじいさんに席を譲ろうとする少年の気持ちに共感することで、他の人を思いやり、親切にすることのすばらしさに気付くことができる。また、おじいさんの気持ちに触れる中で、心を通わすことのできる人間のすばらしさに気付くことができる資料である。

◎価値の自覚を深める工夫

展開前段では、資料の場面を確認し、自らの問題として捉えることができるように、役割演技を取り入れたい。車内の混み合った状況や周りの人々の行動、少年の心情を演技者や見ている児童にも補助発問を交えながら出合う中で、少年の多様な気持ちや、心情の変化を感じ取らせたい。また、展開後段では、「ありがとう。座らせてもらいましたよ」の場面で役割演技を行うことで、心を通じた喜びと自己肯定感の高まりを、より深く自らのことと捉えられるようにさせたい。

本時はT・Tで行うこととした。それは、役割演技をしている時に、児童の反応を2人のTでしっかりと把握したいためと、児童から出された意見を整理して板書することで、価値を視覚的に捉えることができるようにする意図がある。また、机間指導を充実させ、展開後段での意図的指名に活かすことをねらっている。

◎児童の実態

本学級の児童は、「友だちに親切にしたことがありますか?」というアンケートで100%の児童が「ある」と答えた。この結果から、自分の好意的な人には親切にし、物を貸したり、困っていれば手を貸したりする経験を持っていることが分かった。しかし、「友だち以外の人に親切にしたことがありますか?」という質問には22%の児童が「ない」と答えた。また、「親切にしようと思ったけど、できなかったことがありますか?」の問いには、60%の児童が「ある」と答え、「どうして親切にできなかったのか?」の質問には、「恥ずかしかった」「声をかけにくかった」「タイミングを失った」などの回答が見られた。自分に不都合なときや知らない人の場合、相手が困っていても、なかなか親切にできないのが現状であることが分かった。このことから、他人を思いやり、親切にすることは、これから中学生となり新しい人間関係を築いていく児童にとって大切なことと考える。

2 本時の指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点・教師の役割
導入	1 アンケートで自分を振り返る。 ★友だち以外の人に、親切にすることがありますか。 ・道で困っている人に声をかけました。 ・やろうと思っていたけどはずかしくてできなかった。 ・勇気が出ずに言い出せなかった。行動できなかった。	○自分を振り返り、学習への方向付けをする。 ○アンケートの結果を提示し、なかなか親切にできない実態を確認する。
展開前段	2 資料「心に通じた『どうぞ』のひとこと」の前半を読み、話し合う。 ≪電車の中を再現した役割演技をする≫ ○「ぼく」が、譲ったはずの席に他の人が座っていた時、どんな気持ちだったでしょう。 ・どうして他の人が座るんだ。 ・周りの人も気付いてよ。 ・おじいさんに悪いことをしたな。・「どうぞ」と言っていれば良かった。 ○おじいさんが座っているのを見て、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。 ・座れたんだ、良かった。 ・「どうぞ」と言って譲っていれば、もっと早く座れていたのに。 3 資料の後半を読み、話し合う。 ≪おじいさんに声をかけられた場面の役割演技をする≫ ◎「ありがとう。すわらせてもらいましたよ」と、おじいさんに言われた時、どんな気持ちだったでしょう。（ワークシート記入） ・まさか気付いてくれているとは思わなかった。 ・喜んでもらえて良かった。 ・勇気を出して席を立ててよかった。 ・「どうぞ」と言えれば、もっと早くおじいさんに座ってもらえていたので、今度からははずかしがらずに言おう。 ・心が通じ合っていたんだ。 ・人の心って温かいな。	○役割演技を行うことで、車内の状況を感じ取らせる。 ・T ₁ 児童の反応を見ながら発問する。 T ₂ 出された意見を整理して板書する。 ○少年が周りにいる人にも腹を立てていることに目を向けることができるように、補助発問をする。 ○役割演技の途中や後で、演技者やそれを見ている児童にも、少年の気持ちに共感させる発問をすることで、多様な気持ちがあることに気付かせる。 ○おじいさんの気持ちを想像させることで、より温かい気持ちになるように補助発問をする。 ・T ₁ 、T ₂ で机間指導を行い、個の実態に応じた助言をする。
展開後段	4 今までの自分を振り返る。 ★☆人に親切にして良かったということがありますか。 ・横断歩道を荷物を持って渡ろうとしていたお年寄りの荷物を持った。 ・道を歩いていて、荷物を落とした人の荷物を一緒に拾った。	○心のノート P43 を確認し、これまでの自分を振り返る。また、思い出したことを書き込ませる。 ○座席表を活用して、T ₁ ・T ₂ で連携を取り合い、意図的指名に役立てる。
終末	5 教師の話を聞く。 ・親切にすると、心があったかくなるんだな。	○心温まるような体験を話す。

○基本発問 ◎中心発問 ★今までの自分を見つめる発問 ☆これからの自分を見つめる発問

3 教師の評価の観点

- 道徳的価値（思いやり・親切の自覚）を自らとの関わりで捉え、親切にしようとする思いが培われていたか。
- 役割演技をすることで、場面の状況や少年の心情を自らのこととして捉える工夫は、有効であったか。

4 児童の自己評価の観点

- ①いつもの自分を見付けることができたか。
- ②友だちの考えをしっかりと聞いて、自分の考えを深めることができたか。
- ③これからの自分に自信がもてたか。

5 資料

心に通じた「どうぞ」のひとつこと

土曜の午後、母からたのまれて、自分の家から一時間ほどのところへ、列車に乗っていったときの事です。はじめは少なかった乗客も、しだいに多くなって、つりかわにつかまって立っている人もいるくらいでした。

そんなとき、ぼくの前に、一人のおじいさんが立ちました。真っ白なかみをした、こしの曲がったおじいさんです。手さげぶくろからは、みかんが見えていました。

ぼくは、このおじいさんに席をゆずらなくては、と思いながらも、きっかけがつかめず、こまっっていました。やつのことで席を立ったのですが、「どうぞ」のただひとつことが、出てきません。ぼくは、なにげなく次でおじいさんをして、その場をはなれました。

(きつとおじいさんがすわるだろう。)と、心の中で思いながら見ていると、**おじいさんではなく、ほかの人がすわってしまったのです。**

「急いでかけこんで来た人がすわってしまったのです。」(役割演技のため改作)

ぼくは、**その人や(追加)** 周りの人がすっかりしました。ふつうなら、お年寄りを先にすわらせるのがあたりまえのことです。

だけど、「どうぞ」のひとつが言えなかった自分にはらが立って、たったひとつ、「どうぞ」とすすめていればと、何度も何度も思いました。人も少なくなってきた、席にこしかけて向かい側を見ると、おじいさんがすわっていました。よかったと、ほっとしました。

(こままでを前半とする。)

いくつかの駅を通りすぎて次の駅に着こうとしたころ、だれかがぼくの前に立ちました。ふと顔を上げると、あの真っ白いかみをしたやさしい目のおじいさんでした。

おじいさんは、ぼくの手をすつと持つと、その小さなしわくちやの両

手で、ぼくの手を包み、

「ありがとう。すわらせてもらいましたよ。」
と言ったのです。

ぼくは、おどろきと喜びでむねがいっぱいになり、泣きそうな顔では見えむと、おじいさんは、にっこり笑って、列車からおりていきました。

「どうぞ」のひとつが言えなかったぼくに、「ありがとう。」と言ってくれたおじいさんのひとつことで、心がやさしい気持ちでいっぱいになりました。

ぼくは、この気持ちをだれかに伝えたくなくて、「いいことがあったんだ。」って、母に話すと、

「きつと、そのおじいさんも、みかんでも食べながら、家族の人に話しているんじゃない。」

と言われ、また、心があたたかくなりました。

いつもなにげなく使っている「ありがとう」って、自分も相手も幸せになれていい言葉なんだと、あらためて思いました。

ぼくも年をとったときには、あんなおじいさんになりたいと思います。そして、だれかに「人間ってすばらしいよ。人の心ってあたたかいんだよ。」と伝えられる人になれたら、いっそうすばらしいと思います。これからもずっと、おじいさんの手のぬくもりと「ありがとう」の言葉をわすれることはできないでしょう。

一般化で児童に気付けたい内容なので削除した。

6 資料分析と板書

学習活動と 主な発問	資料場面	登場人物の心の動き		児童の意識の流れと板書計画	道徳的価値の 自覚化
アンケート結果を 確認する。 資料を聞いて、話し 合う。 電車の中での状況 を役割演技により 確認する。 ○「ぼく」が、譲っ たはずの席に他 の人が座ってい たとき、どんな気 持ちだったでし ょう。 ○「ぼく」が、譲っ たはずの席に他 の人が座ってい たとき、どんな気 持ちだったでし ょう。	混み合った車 内 ぼくの前に立 ったおじいさ ん きっかけがつ かめず困って いた。 次で降りる振 りをして席を 立った。 周りの人がが っかりした。 『どうぞ』のた だひとことが、 出てきません でした。 良かったとほ っとした。 おじいさんが座 れてどんな気持 ちになったでし ょう。 （役割演技時に発 問する） ◎「ありがとう。す わらせてもらい ましたよ」と、お じいさんに言わ れたとき、どんな 気持ちだったで しょう。 （ワークシートへ 書き込む） ★見知らぬ人に親 切にして良かつ たと思ったこと がありますか。	ぼく どうしよう。 困ったな。 譲った方がいいの かな。 おじいさんしんど そうだな。 はずかしいな。 他の人が譲ってく れないかな。 周りの人ががっか りした。 お年寄りに譲るの は当たり前だ。	おじいさん おじいさんが座れ て良かった。 『どうぞ』と言っ ておけば早く座れた かも……。 おじいさんが気付 いてくれていると は思わなかった。 喜んでもらえてよ かった。 勇気を出して席を 立ってよかった。 心が通じ合ってい たんだ。	・親切にできないこともあるよな。 ・親切にできるときってどんなとき だろう。 他の人が座ってしまったとき ・せっかく譲ろうと思ったのに。 ・どうして他の人が座ってしまった のだろう。 ・おじいさんに悪いことをしてしま ったな。 ・『どうぞ』と言って譲っていろべ よかった。 おじいさんが座つたとき ・良かったな。 ・ほっとしたな。 ・『どうぞ』と言って譲っていろべ、 もっと早く座れていたかもしれない。 おじいさんから「ありがとう。」と言 われたとき ・すっきりした。 ・席を譲ってよかったな。 ・分かってくれていたのか。 ・喜んでもらえて良かった。 ・気持ちが伝わって良かった。 ・人を思いやる心って通じ合えるん だな。 ・人の心って温かいな。 ・今度は、ちゃんと言葉でも伝えよ う。	【思いやり・親切】 2―(2) なんだか言い出すの がはずかしいな。 なぜ他の人が座って しまったのだろう。 「どうぞ」と言ってい ればよかったな。 おじいさんが座るこ とができたのだから 良かったな。
【心のノートの活 用】P43の「わたし からの思いやり」に 記入する。				心が通じたとき、とても温かい気持 ちになるんだな。	思いやりをもって接 することはすてきな ことだな。